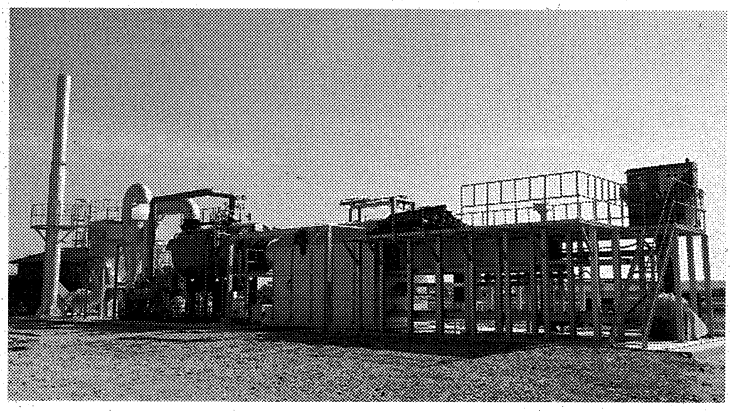
済新聞
（第三種郵便物認可）

丸太で蒸気、温水

リブラン ボイラー運用事業に参入

食品会社や自治体へ提案



実証試験を進めているモデル機

川島英雄社長

環境関連商品の企画・開発を手がけるリブラン（本社桑名市伝馬町、川島英雄社長、電話059・22・1939）は、木質バイオマス燃料を使ったボイラーの運用事業に参入する。木の丸太を燃料にしたボイラーを使い、蒸気や温水を供給するもので、岐阜県のガス事業会社と共同で取り組む。重油などの化石燃料ボイラーに比べ燃料費を最大3割削減できるのが特徴。食品関連会社や自治体に提案する。森林資源を有効活用することで、林業活性化にもつなげる。2020年をめどに、全国で100基以上を運用し、年商60億円を目指す。

（桑名・桝田宏行）

同社は新規事業の開始に向けて今夏、資本金を1億円に増資するほか、社員を増やす方針。

丸太を燃料とするボイラーは自社開発で、燃焼炉、ボイラー、ばい煙浄化装置などを備える。丸太を使うボイラーは日本初で世界でも珍しい。

蒸気発生能力は1時間当たり3㌧。1年中稼働すると、年間約6千㌧の丸太を消費する計算だ。900～1千度の高温燃焼により、水に濡れたり汚れた丸太でも問題なく燃やすことができる。現在、四日市市内にモデル機を設置し、実証試験を重ねている。

同社では新型ボイラーを運用し、蒸気や温水を食品関連会社や自治体などに供給する事業を始める。利用事業者は、蒸気1㌧につき5千円前後をリブランに支払い、ボイラー設置にかかる費用は同社が負担する。重油ボイラーに比べ燃料費が安いことや二酸化炭素削減など環境に優しい点をアピールしていく。

丸太は同社と長期契約した林業家から直接調達する。木質チップと異なり、加工する中間業者を介さないことで林業家が高い利潤を得られる仕組みだ。

すでに食品関連会社3社が導入することを決定。ことし後半以降、順次稼働する。食品の加工調理や包装印刷物の乾燥工程などに利用するという。

自治体では、国の環境モデル都市に指定されている岡山県西粟倉村が導入を検討。村の丸太を使い村民自らがボイラーを運用することで「エネルギーの自給自足」を目指している。

川島社長は「現在、20件ほどの案件をいただき協議を進めている。林業活性化の観点から、新規事業を普及拡大させたい」と意気込みをみせる。

岐阜・三重

●岐阜支社
岐阜市柳ヶ瀬通1―12
岐阜中日ビル8階
058(266)7576
FAX
058(262)6571

●東濃支局
多治見市上野町1―75
日映マンションⅢ602
0572(23)7812

●西濃支局
大垣市本町2―6
スタッドⅠ602号
0584(75)1289

●三重支社
四日市市浜田町3―12
四日市三交ビル3階
059(354)6116
FAX
059(329)5333

●津支局
津市桜橋1―245―3
グランメゾン桜橋3階
059(228)2545
FAX
059(271)6311